

令和8年（2026年）9月8日	資料1
第2回検討委員会	

第1回検討委員会の意見

第1回検討委員会 委員意見のまとめ①

- ✓ 第1回検討委員会では、一体的運営の必要性を確認するとともに、具体的な手法を検討するにあたり、どのような点を重視すべきかについて委員の皆様から幅広いご意見をいただいた。

主な意見

【医師確保の視点】

- 再編と医師確保について、再編の初期段階は大学の医局人事で回す必要があるが、将来的には上越医療圏が魅力を高めて、外からも医師を確保できるようになる必要がある、そのためには、再編による新中核病院の機能強化が重要である。
- 再編初期の医師確保を大学の医局人事で回す場合、新潟大学だけでは医師を供給しきれないことを懸念している。現在、上越には富山大学を中心に様々な大学から医師派遣を受けていることから、新潟大学だけでなく、複数の大学から継続的に医師派遣を受けられるよう症例や研修・指導体制を充実させるとともに、大学との派遣調整を一体的に行える仕組みを整える必要がある。
- 上越では、医学生卒前教育などで富山大学と新潟大学が協力した取組が行われており、また富山大学の一部の医局では新潟大学から教授を招くなど、両大学の親和性が高い。加えて、（医師派遣について、）文科省事業のプラットフォーム事業で県知事や学長を含めた会議体をつくる話もあり、トップダウンも含めて考えていきたい。
- 富山大学・新潟大学が協力して医師派遣を行うためには、医局と医局が融合し、お互いの良いところを学び合って、より良い診療体系を整えていくことが重要である。
- また、どのような医師を派遣するかも重要である。これからは、急性期だけしか知らない医師では不十分なので、新地ケア病院での学びの機会も若い医師にとって重要になることから、若い医師が新中核病院・新地ケア病院で専門医・サブスペを取得できるような枠組みを前提とし、新中核病院から新地ケア病院に一定頻度で医師を派遣（サテライト派遣）することをセットにした医師派遣が必要である。

第1回検討委員会 委員意見のまとめ②

主な意見

【看護師等の医療スタッフ確保の視点】

- 他地域では、再編を契機に、特に看護師を中心とした医療人材が散逸するケースも見られる。転勤や退職金などの人生設計が崩れると職員の離散を招くことから、人生設計を維持できる一体的運営の枠組みを考える必要がある。
- これまでは各病院で看護職員確保を行っていたが、一体的運営が実現した後に、どのような看護師確保を行うか、検討が必要である。再編後の看護職員確保にあたっては、職員が信頼できる人事管理などが重要であり、そのためには、看護職員の人権やウェルビーイングを尊重した個性と能力を十分に発揮できる組織づくりを織り込んだ一体的運営の具体的手法を検討する必要がある。

【医療スタッフの柔軟な配置の視点】

- 新中核病院が高度医療を密に提供するためには、新地ケア病院での患者引受が重要であるが、患者の引受先として重要な役目を果たす新地ケア病院に大学から医師を派遣することは困難であるため、新中核病院から新地ケア病院に一定頻度で医師を派遣（サテライト派遣）することをセットにして、大学から新中核病院への医師派遣を行う必要がある。
- 新中核病院から新地ケア病院への派遣は、医師だけでなく、看護師も考えていく必要がある。新中核病院は、上越地域の看護の質を向上させていくために、看護職員の教育拠点を担う必要があることから、そのような役割を含め、一体的運営の具体的手法を検討する必要がある。
- 利害が異なる開設者・運営者の間で、職員融通を行うのは厳しいのではないかと。また、労務条件が異なる中で職員のやりとりを行う場合、一体感を持って職場で運営できるのか、非常に難しい問題ではないか。
- 一体的運営について、どこまでのものを考えているか、確認したい。場合によっては、法人を一つにすることや、労務条件を合わせるなどといったことをしない限り、職場の一体感は難しいものになるのではないかと。

第1回検討委員会 委員意見のまとめ③

主な意見

【患者フローの視点】

- 新中核病院が高度医療を密に提供するためには、患者フローの整備が必要になるが、そのリーダーシップを取るの
のは新中核病院である。新中核病院になる病院は、患者フローの整備について、準備段階から相手となる病院に
対して手を差し伸べる姿勢で臨んでもらいたい。
- 円滑な患者フローのためには、パイシエント・フロー・マネジメント（PFM）を管理するオフィスが必要であり、
PFMオフィスが圏域内施設の空床状況等を把握した上で、統率・指示を行う必要がある。

【経営の視点】

- 診療報酬について、これまで病床単位や病棟単位での機能に着目してきたところ、今後は病院単位での議論に
なっていくため、経営を成り立たせるためにも、診療報酬と方向性を合わせた機能分化は必要である。

【その他】

- 住民が安心して生活していくためには、（再編により）将来に医療を残していく必要があるということを職員全
員が理解し、一つの目標に向かって全員で動けるような体制づくりが必要ではないか。
- 人口減少は確実に起きているので、現状維持は不可能であり、将来に医療を残すためには再編が必要である。住
民の方に適切な医療を残していくことがポイントであり、（一体的運営の具体的手法について、）誰のために議
論をしているのか、再確認する必要がある。
- 魅力のある病院がないと若い人は残らないので、経験を積むことができるしっかりした新中核病院をつくったう
えで、一体的な運営を行っていくというのは非常に重要な視点である。
- 医師のキャリアについて、急性期だけでなく、回復期なども選択できる仕組みがあることは、キャリアを続け
ていくためにも必要になってくる。柔軟な人事をとることができる組織は、地域医療の持続可能性を高める点で
も重要である。